採用試験

※試験の時期、内容は変更する場合があります。採用試験案内を必ず確認してください

スケジュール

※カッコ内は２次募集のスケジュールです

５月下旬頃～（８月下旬頃～）

採用試験案内入手／受験申し込み

採用試験案内は町公式ＨＰから入手できます。（役場各庁舎にもあります）
受験申し込みは、郵送または持参により受け付けています。

７月中旬頃（10月中旬頃）

第一次試験

■一般事務職

一般教養試験、作文試験、性格特性検査

※技師（保健師、建築・土木技術職等）は上記のほかに専門試験を行います

■保育士・幼稚園教諭

一般教養試験、専門試験、実技試験（ピアノ、弾き歌い）、作文試験、性格特性検査

８月上旬頃（11月上旬頃）

第二次試験　※全職種

・個別面接

・グループ討論

８月中旬頃（11月中旬頃）

最終合格発表

意向確認／採用内定

過去の職員採用試験実施結果については、町公式ＨＰからご確認いただけます。

４月

採用

Ｑ＆Ａ

Q1 与謝野町では どのような人材を求めていますか？

A 多様な住民の立場に立って物事を考え、新しい視点・感覚で、業務改善につながる行動や課題解決に向け粘り強く挑戦できる人を求めています。

Q2 職種によって 募集を行わないことがありますか？

A すべての職種を毎年募集しているわけではなく、退職者の状況などにより、職種によっては採用試験を行わない場合もあります。

Q3 採用の際、 前職の職務経験は評価されますか？

A 職務経験などの経歴については、給与に一定の基準で加算されます。

Q4 グループ討論はどのような形で 実施されていますか？

A 例年、１グループ６人程度に分かれて、指定するテーマに沿ってグループ内で議論していただきます。テーマの事前通知は行っておらず、グループ討論開始前に指定します。
※受験者数などにより内容を変更する場合があります

Q5 居住地や年齢、性別、学歴による有利、不利はありますか？

A 受験資格が満たされていれば、受験者の住所や年齢、性別、学歴、職歴によって有利、不利になることはありません。

問い合わせ

与謝野町役場 総務課 人事・庶務係
〒629－2292 京都府与謝郡与謝野町字岩滝1798番地1
TEL 0772-43-9010（直） FAX 0772-46-2851

HP　Facebook

与謝野で織りなす 新たな未来

与謝野町職員採用案内

与謝野町
YOSANO

1300年の歴史を持つ織物業

古くから手仕事とともに文化を織りなしてきた与謝野町は、1300年以上も前から絹織物の産地であった歴史を持ち、「丹後ちりめん」に代表される織物業とともに発展してきたものづくりのまちです。先人たちから巧みな技術を受け継いだ職人によってさまざまな風合いの生地が生み出され、今では和装用白生地のシェアは全国の約７０％、人口1,０00人当たりの織物事業所数は全国１位を誇ります。

環境にやさしい自然循環農業

豆腐工場から排出されるおからや近隣で捕れた魚介のあらなど天然素材を原料とした与謝野町オリジナルの有機質肥料「京の豆っこ」。「大地の恵みは大地に還す」をモットーとしたこの肥料製造は、全国でも類を見ない「行政が有機質肥料を生産し、農家が購買する」という与謝野町ならではの取り組みの一つです。また、農家と連携し、京の豆っこを使用した環境にやさしい「自然循環農業」を推進しており、この肥料で栽培する「京の豆っこ米」は全国的にもおいしいお米として高い評価を受けています。

新たな価値で未来を創造する

与謝野町を牽引する地場産業を次代へつなぐため、織物業においては、和装にとどまらず、洋装やインテリアなど新たな市場開拓に向けた商品開発を支援し、高い技術力を持つ織物業に新たな可能性を見い出す取り組みを展開しています。また、新たな農業振興施策としてクラフトビール醸造の６次産業化を見据えたホップ栽培に取り組み、国内の小規模醸造所に国産ホップを供給販売する日本初のフリーランスのホップ産地として全国にその名を広げています。

①加悦谷平野と大江山連峰
②阿蘇海　③丹後ちりめん
④有機質肥料「京の豆っこ」
⑤与謝野産ホップ
⑥重要伝統的建造物群保存地区・日本遺産「ちりめん街道」

３つの「み」で進める
与謝野町のまちづくり

与謝野町では、人口減少、少子高齢化が進む未来を見通しつつ、時代の変化や課題に的確に対応していくため「第２次与謝野町総合計画」を策定しました。総合計画では、「みんな・みらい・みえる」の３つの「み」を基本理念として謳い、まちの未来像である「人・自然・伝統　与謝野で織りなす　新たな未来」の実現に向けまちづくりを推進しています。

＼ まちの未来像 ／

人・自然・伝統　与謝野で織りなす　新たな未来

＼ まちづくりの基本理念 ／

みんな

与謝野町に暮らす「みんな」の手でまちづくりを進めていきます

みらい

今を生きるわたしたちが未来を創造し、将来世代のためにも未来志向のまちづくりを進めていきます

みえる

まちの資源や動きをみえる化し、「みんな」にとっての「みえる」まちづくりを進めていきます

自分たちのまちは自分たちでつくる

目の前の課題だけでなく、2040年を見据えたまちづくりを進めるため「みらい」志向で策定を進めた第２次与謝野町総合計画。役場の担当課だけでなく、10年後、20年後の行政を中心となって担う若手職員、そして総合計画審議会委員から推薦を受けた住民11人で構成された総合計画サポーターが協働し、計画の素案を作成しました。まちかどインタビューや中学・高校をはじめ子育て世代、各種団体とのワークショップ等を通してまちへの想いを集め、延べ約2,000人の住民が参画。計画策定の取り組みを「みえる」化するため「与謝野みらい新聞」を計８号作成し、「自分たちのまちは自分たちでつくる」という意識を住民と共有しながら、「みんな」で策定したまちの最上位計画です。

与謝野町のまちづくり

01 みんなの手で未来をつくる

人口減少・少子高齢化の進行や多様な生活様式といった社会環境の変化によって、住民のニーズは多様化・複雑化し、地域課題もさまざまです。そのような中、与謝野町版SNS「よさのみらいトーク」を構築し、まちづくりへの関心を高め住民参画を促すとともに、きめ細かな公共サービスが行き届く仕組みを地域と見い出す「協働のまちづくり調査事業」を実施し、住民の皆さんと一緒に協働のあり方を考える取り組みを進めています。みんなの手でまちの未来をつくるため、多様な地域課題の解決に向けて、住民の皆さんや地域が自ら考え、動き出す力を応援しています。

02 切れ目のない体制で子育てを応援

妊娠中から夫婦で協力し安心して子育てができるよう、保健師が各家庭に合った出産・子育てプランを夫婦と一緒に作成し、育児グッズを贈呈するハローベビープロジェクトを行っています。今後の生活環境の変化について、夫婦が共通認識を持つきっかけとしています。また、産後のお母さんが普段の生活から少し離れ、心身ともにリフレッシュできるよう、産後リフレッシュ事業を実施しており、参加者はリフレかやの里（令和4年度からはかや山の家）で食事や入浴、仮眠をとおしてゆっくり過ごしていただき、その間の赤ちゃんの見守り等を職員がサポートしています。

03 科学的アプローチで農業を推進

与謝野町は「京の豆っこ米」をはじめとしたお米づくりなど農業が盛んなまちですが、農家の高齢化や後継者不足が課題となっています。そのような中、豊かな自然環境や食文化など多くの恵みをもたらす農地を守り、持続的に農業を営んでいくため、ICT（情報通信技術）などを使った科学的アプローチにより、ベテラン農家の経験や勘に頼った技術の裏付けや改善点を明らかにし、栽培技術の向上につなげる取り組みを展開。農家や大学、IT企業などと連携しながら新たな農業モデルの確立に挑戦しています。

04 持続可能な与謝野の産業をつくる

与謝野町の産業においては、しごと・雇用創出、後継者育成、起業等の新たな人財創出などさまざまな課題があります。これらの課題解決に向け、与謝野町中小企業振興基本条例のもと各種事業を展開しています。その一つに、町外在住者を対象に、担い手の高齢化が進む織物業への関心を高め、後継者不足の解消や関係・交流人口の増加を図る織物産地体験プログラム事業を実施しています。本プログラムでは、町内の織物工房の訪問（オンライン×リアル）をとおして、丹後ちりめんの魅力、携わる人の生き方や暮らしぶりを体験していただき町内での就職を支援しています。

05 豊かな自然の恵みを次代につなぐ

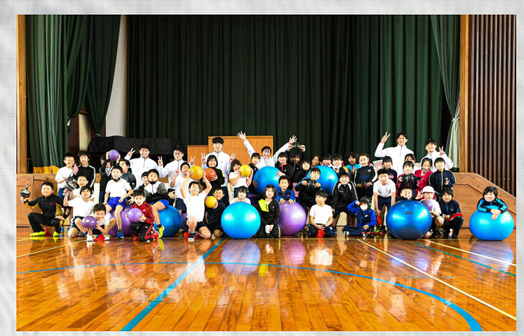
近年の猛暑や豪雨災害などの異常気象は、人間活動によって進行している地球温暖化が原因といわれています。与謝野町では、豊かな自然の恵みを次代につなぐため、「2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロ」を目指す宣言をしました。再生可能エネルギーの利活用や地産地消の取り組み等を積極的に進めていくこととしており、広域ごみ処理施設「宮津与謝クリーンセンター」における生ごみを活用したメタンガス発電による再エネ電気を、小中学校などの公共施設で利用できるよう取り組みを進めています。

06 自分らしく幸せに暮らせるまちに

加齢などによりできないことが増えても、“だんにゃーで”（丹後地方の方言で「大丈夫だよ！」の意味）と住民同士がお互いにそう思い合えるまちづくりに取り組んでいます。なかでも「認知症カフェ」は多くの事業所で開催し、地域の人々が気軽に集い和やかな雰囲気のもとで交流を楽しみ、認知症のことやその対応などについてお互いの理解を深めることができる場となっています。認知症になっても、他の病気と同様に上手につきあいながら、みんなが自分らしく幸せに暮らせるまちを目指しています。

07 より良い移住をめざして

与謝野町は大きなまちではありませんが、魅力ある人や産業、豊かな自然を求めて移住される方が増えています。近年では、まちの様子を知り、実際に暮らしを体験してもらう機会を提供するための「お試し住宅」の設置をはじめ、子育て世帯への移住補助制度の新設、休日やオンラインでの移住相談受け付けなど新たな取り組みを展開。たくさんの労力とお金をかけて移住してこられる移住者の方と、受け入れる地域の方それぞれにとってより良い移住となるよう各種事業を推進しています。



08 高校魅力化で人財育成を推進

「まちづくりは人づくり」をテーマとし、町内唯一の府立高校の魅力化を図り、社会に最も近い存在である高校生にまちの魅力や課題を伝えるなど、保幼小中に高校も含めた人財育成を推進しています。探究学習、キャリア教育を通じて、積極的に地域と関わる学びを展開することで、「進学で都会に行っても、このまちに戻って頑張りたい！」「遠くにいても故郷を応援し続けたい！」と思ってくれる熱量ある人を増やし、将来の地方創生、地域活性化につなげていくことを目指しています。

INTERVIEW 01

事務職

小長谷 柚里

住民環境課
加悦庁舎住民係 主事

令和2年入庁（一般事務職）

志望動機

大学では教育の分野について学んでいました。その中で特に関心を持ったのが、子どもの心身の健康に関することです。実際に児童相談所や福祉施設などを訪問し、そこでの子どもたちの生活やどのような子どもがその場を利用するのかなど現場の声を聞くなかで、子どもを支える、見守ることができるような仕事がしたいと思うようになりました。生まれ育った地で働きたいという思いも強く、行政の立場から子どもに関わりたいと思い志望しました。

現在の仕事

所属する住民環境課は住民係と環境係に分かれており、それぞれ担当している業務が異なります。私は住民係に所属しており、窓口での住民票や印鑑証明、戸籍に関する証明書の発行をはじめ、転入出などの住所変更、マイナンバーカードの交付、出生届や婚姻届など戸籍に関する届出を受け付けています。また、相談事業も担当しており、各種機関と連絡を取りながら日常の困りごとに関する相談会や法律相談会などを開催しています。日々扱う事務の中でも、戸籍に関しては身分関係を証するものであり、審査も慎重に行う必要があります。住民の方々にとって、カウンターの向かい側にいる私たち職員は、その分野に精通した者だと認識しておられると思います。理解を深めることで相手にもより詳しい説明を行うことができるようになると思うので、まだまだ勉強することはたくさんありますが、その学びが自分の力になるよう日々励んでいます。

職場の雰囲気

住民環境課は女性職員が多く、話しやすい、雰囲気のよい職場です。住民係で経験を積まれた先輩方は、知識が豊富であり、わからないことがあれば一から教えてくださります。また、先輩職員の方々は、相手に対して丁寧に説明をすることがごく当たり前であり、私もそのような先輩方の姿を見て、丁寧であることに限りはないのだと、窓口応対時に心がけるようになりました。そのような中で、来庁いただいた住民の方々から「ありがとう」とお声をかけていただけることは自分自身にとってもありがたいことであり、仕事に対するモチベーションも上がります。

INTERVIEW 02

事務職

本田 智宏

企画財政課
企画政策係　主事

平成26年入庁（一般事務職）

志望動機

幼少の頃から「人の役に立ちたい」という思いを持っており、中学生の時に公務員という職業を知りました。大学時代に地域課題の解決を図るフィールドワークに参加し、地域の方々との交流を通じて「地元で働きたい」という思いが芽生え、地元での就職を考えるようになりました。私は隣の宮津市で育ちましたが、与謝野町に家族が住んでいたこと、また自然豊かな土地柄や大学での経験を活かせることができると思い与謝野町役場を志望しました。

現在の仕事

主に公共交通の業務を担当しています。与謝野町は鉄道、幹線バス、町営バスが交通基盤のまちで、特に複数市町にまたがる鉄道、幹線バスは沿線自治体が協調して補助することで運営を維持しており、近隣市町の担当者とも連携しながら利用促進に努めています。学生や高齢者など移動手段を持たない方々にとって重要な地域交通である町営バスは、民間企業へ運行を委託し、バス停の設置申請や利用者へのアンケート調査をはじめとする実態調査、路線再編などの検討・調整を行っています。また、町内には唯一の鉄道駅「与謝野駅」があります。与謝野町の財産である当駅の運営、維持に関する事務を行うほか、年２回の時刻表の作成やダイヤの調整、運行ルートの検討などを行っています。交通事業者に限らず全国的に人手不足が深刻化し、人口減少も進む中、町の財政負担も年々増加しています。限られた資源の中で事業を継続させていくことは大変ですが、地域と一緒になり10年先でも維持ができる交通体系について検討を進め、課題解決に向け取り組んでいます。

制度の活用

私は派遣研修の制度を活用し京都府へ出向しました。出向先は企画部門で京都府の総合計画を進捗管理する部署でしたが、京都府全体の事業について知ることができ、京都府北部だけでなく京都府全体の幅広い視点を持つことが大切だということを学ぶことができました。出向中の２年間は決して楽しいことだけではありませんでしたが、今思い返しても町役場だけでは学ぶことができない貴重な経験ができたと思っています。

※所属やインタビュー内容は令和４年３月時点の情報です

INTERVIEW 03

事務職

企画立案の感覚を身につけ

自ら提案し

頼られる存在になりたい

田中 和恵

農林課
農業振興係　主事

令和3年入庁（一般事務職）

志望動機

大阪から与謝野町に嫁いでくるまでは、民間企業に勤めていました。友人や知り合いのいない丹後地域で生活を送る中、子どもが生まれ、子育てを通じた知り合いやつながりを持つことができましたが、子どもを通さない地元とのつながりをつくりたいと思っていました。そのようなときに氷河期世代を対象とした職員募集が目に留まり、これだ！と思い志望しました。

現在の仕事

農林課の農業振興係で、与謝野町オリジナルの有機質肥料「京の豆っこ」の販売管理をはじめ、農家さんが機械を導入される際の補助金事務や新規就農者のフォロー、ICT（情報通信技術）を導入した農業の取り組み、大学と連携して取り組む京の豆っこの施肥試験などを担当しています。最近では、新型コロナウイルス感染症により影響を受けた農家さん向けの町独自支援の交付金事務や大雪で被害に遭ったパイプハウスの支援事業も担当しており、忙しい日々を送っています。そのような中でも、できる限り自分の目や耳で確認することを大切にし、仕事に取り組んでいます。実際に現場に行ったり、農家さんから話を聞くことで、自分の知識として身に付きやすく、困っておられる農家さんの立場に寄り添えるのではないかと思います。目標は、自ら提案し、頼られる存在になることです。農業分野の知識はもちろん、行政の立場での企画立案の感覚を身につけて、よりマクロな取り組みができるようになりたいです。

仕事のやりがい・魅力

与謝野町では、まちをあげて自然循環農業を推進しており、その中心となる「京の豆っこ」に深く関わる仕事を担当しているため、やりがいはもちろんのこと責任も感じています。現場に出ることも多く、真夏の炎天下の中、施肥試験のサンプリングのため長靴を履いて田んぼに入って泥だらけになったこともあり、アクティブな毎日です。入庁する前は、公務員＝ルーティン業務が多いイメージでしたが、担い手の高齢化、耕作放棄地の増加などの農業の課題に対し、自分の考えを発信していけば、若手でも、自分のやりたいことを柔軟にさせてもらえる職場だと感じています。

INTERVIEW 04

建築技術職

多角的な視野を持ち

住民の皆さんが住みやすい

まちづくりに貢献したい

大江 勇人

建設課
住宅係　主査

平成25年入庁（建築技術職）

志望動機

私は学生の頃から建築を学び、前職は建築関係の民間企業に勤めていました。建築という仕事は周りに与える影響が大きく、地域の特性やそこで生活する人々を知ることが大切であり、その根幹には行政があることを働く中であらためて感じ、関心を持つようになりました。公共施設の老朽化や統廃合が課題となっている時代において、私は自分が生まれ育った与謝野町で建築物をとおした行政サービスに携わり、地域の人々の基盤を支えるような仕事がしたいと思い与謝野町役場を志望しました。

現在の仕事

私は主に公共建築工事の管理を行っています。設計時は施設の所管課と設計内容を協議し、基準法令や積算方法などを確認しながら設計図書を作り上げます。工事中は毎週現場に行き、施工における検討事項の打ち合わせや工程・品質管理を行っています。建築工事は基本的に設計・監理を委託しており、設計士の方と協力しながら業務進捗を図るため、私は行政という立場から指導や管理を行い、正確な工事遂行を目指しています。また、与謝野町の補助制度を活用した木造住宅の耐震改修や耐震診断事業も担当しており、書類審査や事業計画などを行っています。

仕事のやりがい・魅力

与謝野町は大きなまちではないですが、指定文化財から温泉施設まで、多種多様な建築物があります。それぞれの施設の性質や用途、求められている条件などを考慮しながら設計を進めていく難しさがあり、流動的な工事の中で不測の事態に対応しなければならない業務は大変責任を感じますが、同時に、全員で協力してさまざまな課題を乗り越えながら一つのものを作り上げていくことに達成感とやりがいを感じます。また、成果が目に見える形で残り、その施設を利用される方の喜ぶ顔が見られることはこの仕事の魅力だと感じています。公共施設の在り方については今後も状況が変わり続けると思います。建築物の機能だけにとらわれず、公共サービスを見据えた多角的な視野と柔軟な対応力をもって、住民の皆さんが住みやすいまちづくりに貢献していきたいです。

※所属やインタビュー内容は令和４年３月時点の情報です

INTERVIEW 05

保健師

住民の方が健康に向き合い
安心して暮らしていける
力になりたい

足達 友佳

保健課
保健係 保健師

令和2年入庁（保健師）

志望動機

看護師と保健師資格を取得する過程で、疾病の早期予防について考えることが多くありました。人口規模や年齢構成が与謝野町によく似た地域で地域保健を学び、与謝野町を思い返すことが多くありました。次第に興味を持つようになり、生まれ育ったまちで生活習慣病を起因とする重大な病気を早期に防ぐ仕事がしたいと思い与謝野町役場を志望しました。

現在の仕事

与謝野町役場の保健師は数多く、各分野の専門的な事業に携わっています。大きく「母子」「成人」「福祉」の3つの分野に分かれており、私は主に成人分野を担当する保健課に所属しています。保健課では、夏の住民健診を主軸にして、メタボリックシンドロームに該当される方への保健指導や運動教室の実施、がん検診を受診し精密検査となった方への訪問、受診の説明等を行っています。今年度でいえば、市町村が新型コロナワクチン接種の実施主体であるので、集団接種の従事に加えて、接種の調整、ワクチンの管理、接種券の発行など、事務的な仕事もしています。早急な対応が求められるので、忙しい毎日を過ごしています。その他にも、健康相談、乳幼児健診の計測・保健指導などさまざまな仕事をしています。その人の大事にしていること、価値観を尊重することを大切にしながら、住民の方が自身の健康に向き合い、地域の中で安心して暮らしていけるよう力になれたらうれしいです。

職場の雰囲気

保健師の配属先は現在、子育て応援課、保健課、福祉課の３つです。事業を合同で行うこともあり、保健師同士の関わりが深いです。長年在職している先輩の保健師は、住民の方の体調や環境の変化に敏感で、地域の方と長年関わってきたことを肌で感じられます。新型コロナウイルス感染症予防等で従来の保健師活動は最小限になっていますが、私も経験を積み、このような保健師になりたいと常々思っています。また新人保健師には、プリセプターの保健師がつき、相談しやすい環境で丁寧にフォローがあり、とても助かっています。

INTERVIEW 06

保育士・幼稚園教諭

思い出の残る園生活を送り
生まれ育った与謝野町を
大切に思ってもらいたい

早瀬 杏美

かえでこども園
保育教諭

平成24年入庁（保育士・幼稚園教諭）

志望動機

私はピアノや絵を描くこと、そして子どもと接することが大好きで、保育士を目指すようになりました。学生時代には、与謝野町で保育実習をした際、先生方や地域の方々に「素敵な保育士さんになってね」と温かく応援していただきました。優しく温かみのあるふるさとで、保育士として将来を担う子どもたちの教育・保育に携わり、地域に貢献していきたいと思い与謝野町を志望しました。

現在の仕事

現在、４歳児の担任をしています。子どもたちの健康をしっかり把握しながら、年齢・季節に応じた遊びを楽しめるように環境を整え、子どもたちと一緒に楽しみながら教育・保育を進めています。また、保護者との連携・共通理解を深めるためにクラスだよりやドキュメンテーション（教育・保育の可視化）を作成しています。子どもたちにとって安心できる存在であるように心がけ、温かい雰囲気と笑顔を大切に日々過ごすことを意識しており、子どもたちにとって温かい、思い出の残る園生活を送ることができるよう自身の資質向上に努め、生まれ育った与謝野町を大切に思ってもらえたらいいな、と思っています。

仕事のやりがい・魅力

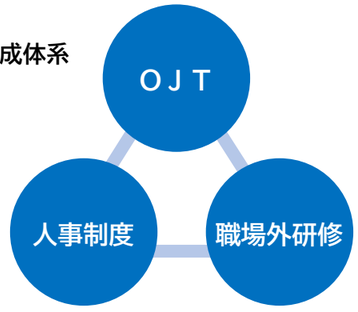
子どものかわいい笑顔や元気な姿から、私自身も元気をもらっています。うまくいかないことや悩みもありますが、子どもたちと一緒に成長することができる素敵な仕事だと思います。一人一人が大切な存在であることを、日々の関わりをとおして伝えたいと思っており、子どもが自分や友だちを大事にしようとしている姿を見た時には「保育教諭をしていてよかった」と思えます。また、勤務するかえでこども園は子どもたちのよりよい園生活のために、一人一人の先生方が力を発揮し、互いに協力し合える環境だと感じています。親身になって考えたり一緒に悩んだりしてくださる先輩や、同じ目標に向かって助け合いながら教育・保育をすすめられる同僚や後輩の皆さんと一緒に楽しく仕事をすすめられる職場であり、保護者の方はもちろん、職員同士でも子どもの成長を喜び合えることに、この仕事のやりがいを感じています。

※所属やインタビュー内容は令和４年３月時点の情報です

人材育成・人事制度

与謝野町では、「与謝野町人材育成基本方針」を定め、人材育成の取り組みを推進しています。各部署で上司や先輩職員が職務を通じて部下・後輩職員を育成する「OJT（On the Job Training）」を人材育成の基軸としつつ、OJTでは得られない違った視点からのものの見方や考え方を醸成する「職場外研修」、そして人事異動、人事評価などの「人事制度」を連携させることで、職員一人一人の成長を支援しています。

人材育成体系



01 OJT

新規採用職員サポーター制度

OJTのひとつに「新規採用職員サポーター制度」があります。新規採用職員サポーター制度とは、新規採用職員が安心して職場生活を送ることができるように先輩職員（サポーター）がマンツーマンで1年間サポートするものです。サポーターは、職務に必要な知識やノウハウ、社会人としてのマナーなどについてアドバイス・指導を行うほか、新規採用職員が日常的に抱える疑問や悩みに対する身近な相談相手として精神面のサポートも担います。

新規採用職員研修

与謝野町職員として求められる心構え、与謝野町のまちづくり理念や法制執務、情報セキュリティなど職務上直ちに必要な基礎的知識の習得を図るため、4月上旬に新規採用職員研修を実施します。また、4月中旬には電話応対をはじめとする社会人として必要なビジネスマナーを学ぶ研修、11月には政策形成に必要な知識を座学とワークショップを交えて習得する研修に参加し、職務に必要となるスキルを身につけていきます。

02 職場外研修

階層別・能力開発研修

採用年数や役職に応じた「階層別研修」をはじめ、法制執務や政策立案など自治体職員として必要な専門知識を学ぶ「能力開発研修」などを行っています。他の自治体職員との交流を図り、相互に啓発し合うことで、OJTでは得られない違った視点からのものの見方や考え方を醸成する機会としています。

派遣研修

幅広い能力の習得や経験を身につけるとともに他の自治体職員とのネットワークづくりの機会として、京都府への派遣研修を行っています。

03 人事制度

人事異動

職員の個性、適性を活かし、やる気を重視した適材適所の人事配置を行っています。また、職員の異動希望に関する意向調査（ジョブローテーション）を毎年実施しており、本人が経験したい業務に従事することを希望できる制度を設けています。

人事評価

主体的に行動できる能力の高い人材を育成するとともに、みんなで力を合わせて組織力を向上させ、質の高い行政サービスを提供するために、職員の仕事ぶりを上司が評価する「人事評価」を実施しています。日ごろの業務内容を目標として設定し、目標の達成実績と職務を遂行する上で発揮された能力等を評価することで、職員のマネジメント力、実務能力の向上を図っています。

勤務条件

勤務時間・休日

勤務時間は、午前８時30分から午後5時15分までです。
休日は、土曜日、日曜日、祝日、年末年始（12月29日から翌年の１月３日）です。
※職種により異なる場合があります
※業務や時期によっては時間外勤務が発生することもあります

休暇等

年次休暇は20日で、未使用日数は20日を限度として翌年に繰り越すことができます。その他、特別休暇（夏季休暇、結婚休暇、産前・産後休暇、男性職員の育児参加休暇、子どもの看護休暇など）や介護休暇の取得も可能です。子どもが３歳になるまで取得可能な育児休業制度もあり、仕事と家庭の両立をサポートしています。

待遇

初任給 ※令和4年4月時点

職種	区分	初任給
一般事務職・技師等 保育士／幼稚園教諭	大学卒	182,200円
	短大・高専卒	163,100円
	高校卒	150,600円

諸手当

期末・勤勉手当が6月と12月に、その他にも住居手当、通勤手当、扶養手当等が条件に応じて支給されます。

福利厚生

給付・助成・貸付等

共済組合や厚生会に加入しており、病気やけが等の場合に療養費や見舞金が給付されるほか、結婚や出産時には祝金等が給付されます。また、自己啓発活動への助成や宿泊施設の利用助成、車や住宅取得に必要となる資金の貸し付けなど、さまざまな福利厚生制度を利用することができます。